

Title	地域と一緒に考える 地域と一緒に考える - サイエンスカフェ 4 -
Author(s)	
Citation	JAIST社会イノベーション・シリーズ, 4
Issue Date	2008-03
Type	Others
Text version	publ isher
URL	http://hdl.handle.net/10119/4856
Rights	
Description	

■ 今後の展望

サ イエンスカフェは専門家と一般の方が対等に語り合う場としてはじまり、現在はさまざまなスタイルで世界の各地で開催されています。JAIST が企画運営するサイエンスカフェ石川は、地域の住民の方々、専門家、行政などさまざまな立場の知をつなぎ、専門の研究者だけでは解決できない社会的課題や地域が抱える課題の解決の一助を担う、対話・交流の場を目指します。

サイエンスカフェ石川では今後もさまざまな場所、テーマでカフェを企画していきます。最新の情報や、過去のレポートはホームページをご覧ください。



第5回サイエンスカフェ看板

<http://www.jaist.ac.jp/coe/cafe/index.html>



「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」とは？

「21 世紀 COE プログラム」とは、日本に世界最高水準の研究教育拠点 (center of excellence) を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材の育成を図るため、平成 14 年度から文部科学省が実施している事業。「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」は、本学で採択された最初の COE プログラムであり、平成 15 年度から始まって今年が 5 年目、すなわち最終年度にあたる。本プログラムでは先端科学技術の研究の場、さらに社会のあらゆる状況において、イノベーションを起こすための知識創造プロセスの研究、そして、それを担う人材としての「知のコーディネーター」「知のクリエイター」育成に取り組んでいる。文理融合を、マテリアルサイエンス研究科 (理系) と知識科学研究科 (広い意味での文系) の連携プロジェクトという形で実践している点が、本 COE の大きな特色である。

JAIST 社会イノベーション・シリーズ No.4

発行 2008 年 3 月

発行所 国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学・科学技術開発戦略センター
〒923-1292 石川県能美市旭台 1-1 知識科学研究科棟 II 7 階

■本誌に関するご意見、お問い合わせ

TEL : 0761-51-1839 FAX : 0761-51-1767 E-mail : coe-secr@jaist.ac.jp

本誌は、文部科学省 21 世紀 COE プログラム「知識科学に基づく科学技術の創造と実践」の助成を得て発行しております。

JAIST SOCIAL INNOVATION SERIES

社会イノベーション・シリーズ 4

地域と一緒に考える 地域と一緒に考える — サイエンスカフェ石川 4 —



JAIST が企画運営する「サイエンスカフェ石川」は、専門家の知見や大学の研究成果を広く発表し、地域の声を研究にフィードバックすることで、両者の相互交流・相互理解を目的としたイベントです。いわば、科学技術と社会の“架け橋”。科学技術なんて固い話は聞きたくないわ、という方にも関心を持ってもらえるような、ちょっとユニークなテーマ設定を心がけています。

今回は、これまでに開催したサイエンスカフェの中から、特に地域の皆さんに興味を持って参加してもらえたもの、地域に深く根ざした内容のものを紹介します。

SCIENCE CAFE ISHIKAWA 4

第1回 サイエンスカフェ

コーヒーを片手に石川の環境を語る

北 陸地域初めてのサイエンスカフェ=JAIST が実施する初めてのサイエンスカフェは、石川県立大学の学園祭「響緑祭」に模擬店として出展するかたちで行われました。

初日は金沢大学 21 世紀 COE プログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」で黄砂の研究をされている佐藤努助教授が、黄砂が北陸地域に与える影響について幅広い視点で講演しました。2 日目は NPO「石川県くらしと環境を考える会」会員でもある JAIST の千原かや乃さんが中心となり、環境に配慮した焦点や景観の美しい街並みなどを標記した国際標準

の環境地図「グリーンマップ」について紹介しました。

各テーブルにはファシリテータを含めさまざまな立場の参加者 5 名前後が着席、モデレータの西川和秀さんが参加者と専門の研究者であるゲストをつなぐ司会進行を担当しました。参加者は、ゲストのトークの後にテーブルごとにディスカッションを行い、意見や疑問点を簡単にまとめて発表しました。ゲストの佐藤助教授もテーブルでの話し合いに積極的に参加されました。

イベントには両日合わせて 60 名程度が参加。もちろん、通常のカフェとして利用されるお客さんもうらやいました。



石川県立大学構内のパティオで開催されたサイエンスカフェ



各テーブルでの発表の様子



Event Data

テーマ：「石川地域の環境・人・今」

開催日時：2005 年 10 月 29 日(土)、30 日(日)

話題提供：「日本海を渡る黄砂と、私たち」

(1日目) 佐藤 努
(金沢大学 自然計測応用研究センター地球学科 助教授)
玉村 修司
(金沢大学 博士課程)

協力・後援：石川県立大学／石川県農業短期大学／学生自治会／響緑祭実行委員会／ JAIST 日本海環境ナレッジアプローチプロジェクト／ JAIST 学際コミュニケーション研究会／金沢大学 21 世紀 COE プログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」／石川県くらしと環境を考える会

会場：石川県立大学

※第1回のみ「JAIST SCIENCE CAFE」として活動しました。

モデレータ：西川 和秀

(JAIST 環日本海ナレッジアプローチプロジェクト推進役)

話題提供：「宝ものの再発見－グリーンマップから－」

(2日目) 千原かや乃
(石川県くらしと環境を考える会、JAIST 知識科学研究科)
宮下 明珠
(JAIST 知識科学研究科)

第4回 サイエンスカフェ

風土とまちづくりの関係って？

そ れぞれの地域には、風土に応じた人の考え方やまちの作りがあります。第 4 回サイエンスカフェは、石川県立大学の第 2 回響緑祭に出展し、石川の風土を活かしたより良い地域のあり方について、来場されたみなさんと一緒に考える時間を持ちました。

1 日目は気象予報士であり、JAIST で学ぶ平松章男さんがゲストとなり、北陸の特徴的な気象と天気予報について講演しました。2 日目は同じく知識科学研究科の千原かや乃さんが、北陸の地域再生について「地域再生

を考える－にぎわいとは何か－」と題して講演しました。

今回、会場には「へえへえボタン」と称するボタンが設置されました。これは JAIST 知識科学研究科の宮下明珠さんが開発した装置で、押すと「へえ」という音とともに回数を記録することができるもの。今回はこの装置を使って講演時とディスカッション時のゲストや参加者の興味関心を計測しました。またサイエンスカフェが大学や職場を超えた交流の場となったのか検証するためにアンケート調査も実施しました。

Event Data

テーマ：「風土からみた地域再生」

開催日時：2006 年 10 月 28 日(土) 29 日(日)

話題提供：「北陸の気象－天気予報どう使う?－」

平松 章男 (JAIST 知識科学研究科)

「地域再生を考える－にぎわいとは何か－」

千原 かや乃 (JAIST 知識科学研究科)

共 催：石川県立大学響緑祭実行委員会

会 場：石川県立大学



へえへえボタン



サイエンスカフェに必須の「お菓子」

第5回 サイエンスカフェ

カフェを語るサイエンスカフェ

サ イエンスカフェとは何か？ 第 5 回サイエンスカフェでは、JAIST の新しい取り組みであるサイエンスカフェについて広く地域住民の方に知っていただくこと、サイエンスカフェ石川の活動を交えて、そもそもカフェの歴史って何??ということから話題提供が始まりました。実は、昔のカフェは政界や芸術家など知識人が集まる場だったんです。最後には、魅力的なカフェ、アイデアの出るカフェとは何なのかをみんなでディスカッションしました。

発表の際には小学生が発表者となったグループもあり、積極的な意見交換が行われました。当日は満席で立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

今回も会場に「へえへえボタン」を設置し、講演時とディスカッション時のゲストと参加者の興味関心を測りました。

Event Data

テーマ：「カフェでサイエンス－JAIST 生の新しい取り組み－」

開催日時：2007 年 5 月 26 日(土) JAIST オープンキャンパス

話題提供：宮下 明珠 (JAIST 知識科学研究科)

会場：JAIST 国際交流会館 第 1・第 2 会議室



宮下さんの説明に耳を傾ける参加者